

ふみこの

# チャレンジ通信



発行 山下ふみこ後援会『ふみことステキな仲間たち』

〒410-0022

沼津市大岡1556-2

TEL. 055-962-2509

FAX. 055-951-4855

NO. 4



愛犬ノーマンも大事な家族

1年間を振り返ってみて、私はどうだったのだろうか。「まあ、まあ」「まだ、まだ」「もっと、もっと」といついつ反省しなくなってしまう日々であったようにも思う。でも、私はこう思うことにした。「去年よりずっといいじゃないか」そう、古くからの友人、出会った人々、仕事の内容も、そして私自身も、新しい年を迎え、私たちは今どんな社会にいて、どんな将来を目指したいのか、希望を膨らませ、その夢の実現に向かって進んでいく社会になっているのでしょうか。環境、経済、平和

## 新年を迎えて思うこと



山下ふみこはがんばります。

### あけまして

### おめでとぅございます

昨年中は山下ふみこ後援会にご厚誼を賜り誠にありがとうございました

## 市政相談 受付中

TEL.055-962-2509

山下ふみこ  検索

山下ふみこのブログは携帯からもアクセスできます。

ホームページ <http://www.yamashita.fm> メール: [mail@yamashita.fm](mailto:mail@yamashita.fm)

求し出た資料の示す数値は黒塗りである。これではその必要性の根拠が見えてこない。そして有識者や住民代表と市議会等が市民の意見を十分に聴き取り、十分に検討したのでそのプロセスには何ら問題がないという。本問に問題がないのだろうか。その根拠となるデータや資料がどのよう提示されたのか、調査分析はいつ、だれが、どこで、どのようにしたのか、議員でさえ提示されないことがある。見ただけと言われ、何時間もかけて書きで写し取ったこともある。既得権益を守り、町の根幹が空洞化しているにもかかわらず、中心市街地の活性化になつていざし然と云い続ける。そしてだれも責任をとることはない。でも確実にまちは壊れていく。これからは人口も、経済のパイも小さくなる中で、地方の試練はこれから本番である。地方行政はどうか。決して今までは通りにはいかない。身の丈行政の必要性が本場に問われている。首長たる市長や議会の責任は重い。住民のための行政をどう確立するのか。子どもたちに21世紀に責任を担わせる「まちづくり」が、今こそ問われている。

## 地方の試練はこれから本番!

など様々な変化を肌で感じ、何となく感じていた不安が現実のものになってきているように思っています。

以前は「このままでいいじゃないか……」という声もよく聞きました。でもその不安が「このままじゃだめ、変えなければ……」と日本中の人々が気付き始めていたのです。その一つにダムやハコモノへのNOであり、税金を有効に使ってくれという

意思表示は政権交代に繋がりました。

今、人々の意識が大きく変わるうとしています。その大きな変革の中で、ちょうど嵐の前の小舟のように大きく揺れている時代の真只中で、ますます議員としての資質を問われることになりそうです。私のなすべき役割は何か、何ができるのかを改めて考え、応援して下さい。皆様に「もっとよく見え、分かりやすく、透明性のある議会」を目指し、地域住民の生活を支える住民が主体のまちづくりを目指していきます。

有権者であり、納税者である住民の意識が変わってきた。まさかという選挙結果が全国的に起きています。自分たちの納めた税金の行方に強い関心を持ち始めている。多くの都市で上からのおしきせ行政ではなく、行政と住民との対話が各地で始まっている。とにかく住民に対して、県や市町の持っている情報は開示する。そして、その情報を基に住民参加に立って、行政と住民による対話から、新しい計画が立案される。県や市町の行政

がどのように意思決定されるのか、その透明度が進むことでの仕組が見えてくる。

しかし、何をやっているのか分からぬ市町もある。「こんな無駄なもの何故?」「いつ決まったの?」「という声は、ハコモノができてからでは遅すぎる。議員になって同じような経験をいくつもしている。資料を請求すると出てこないことがある。ではどうすれば出てくるのか、担当課に「情報開示請求して下さい」と言われる。情報開示請

山下ふみこのホームページアクセス数 毎回1000件突破「ブログ大好評」

# 第10回沼津市議会9月定例会

9月24日より開始した議会における一般質問の要旨。

## 新政権下における市財政への影響について その影響と鉄道高架事業を取り巻く状況について

### ―質問要旨―

大変気になるのは市の財政見通しである。

鉄道高架事業は莫大な財源支出ばかりではなく、この10年間の建設事業の中には学校・市営住宅の耐震化やごみプラント、東部コンベンションセンターなどの大型事業の建設計画である。この期間の中で超大型事業が集中する計画に、果たして無理はないのか。

一、沼津市の出した21～30年度までの財政見通しは内閣府が出した21年度経済見通しに準拠したもので、大変大雑把なものである。  
二、20年度決算で既に予測の甘さが出ている。法人税が予算の半分の20億円減額になるといふ。法人税の落ち込みは後で個人市民税と連

### 動する。

三、借金残高に注目5～6年先で市債残高は急激に増加する。20年度決算では710億円が26年度の見込みでは930億円。6年間で220億円も増えるのに、公債費(借金返済)は80億円台で推移するのは疑問である。借金は増えるのに返済額は変わらない。この借金残高の増加は子どもたちへ大きな負担に繋がっていく。

四、沼津市の人口予測は非常に厳しい。近隣4市2町と比べると年少人口の落ち込みと高齢化の増加が早い。また若いファミリー層が出て行っている実態がある。

このような状況下で暫定税率の問題と併せて鉄道高架事業への影響はどうか。

### ―答弁要旨―

鉄道高架事業をはじめとする大型

今年世が変わる時代が始まったのだろうか、アメリカではオバマ大統領がチエンジを叫んで登場した。日本でも政権交代で民主党鳩山さんが首相になった。鳩山政権もウオーミングアップなしに突如、ひのき舞台に踊り出した感もあり、ぎくしゃくした動きに、国民にも新しい時代への期待と危惧が交錯する複雑な思いがあるのだろう。21世紀、私たちの子供たちの時代は一体どうなるのだろうか。

20世紀の後半は、平和が続き、民主主義は曲がりなりにも定着し、人口は増加し、高度経済成長が続いて、未来への期待が大きくなつて行った時代であった。しかし、21世紀への不安は誰の胸にも去来している。人口の減少であり、少子高齢化の進展である。20世紀の百年間で日本の人口は4549万人か1億2693万人と3倍にも増加した。しかし、21世紀には、逆に出生率の低下から、3770

万人と3分の1にも落ち込み、10人に4人が高齢者になるといふ予測もある。地方都市にも大きな変化が現れる。沼津市の衰退が言われて久しい。東部全体では人口は微増だが、沼津市は減少傾向が続き、若い市民

## ふみ子さんへの期待

長谷川 徳之輔

に優先順序をつけなければならぬ。成熟した国では、モノより人の時代であり、教育福祉の充実の反面、無駄な公共事業はやれない、やらないのが時代の大きな流れになっている。

こんな難しい時代にふみ子さんは、市議員として沼津市の市民生活を考える舵取りの役を果たすことになった。地方政治では、利権や情実によつて政策が選択されるのではなく、市民の利益、福祉から選択されなければならない。その視点から考え、行動する人材が求められているが、ふみ子さんにはご苦労様だが、その役を果たしてもらわなければならない。まだ、若く経験は足りないが、真面目に、真剣に考え、行動している姿は、多くの市民の共感と支持を得ているものと思っている。不透明の時代だからこそチェンジが必要なのだと思う。真に市民を代表するふみ子さんに期待するゆえんである。

後にも健全性を保持しながら財政運営を行い、財政見通しの役割を果たしている。今

後にも健全性を保持しながら健全な財政運営に努める。

# 政権が変わった!

報告





# 沼津市議会も変わるのか？

## 第11回沼津市議会11月定例会

11月24日より開始した議会における一般質問の要旨。

### ○東部コンベンションセンター整備事業について

#### 事業の目的と意義

この事業の基本コンセプトは東部地域の広域的な連携を通じて、日本全国、アジアからも人が訪れ、国際会議が行われ、人、モノ、情報が交流し、観光や産業振興にも寄与し、高次都市機能が備わった

拠点都市を目指すことが目的  
事業仕分けの結果は

県内3つ目の施設であり、必要性、効果を十分に議論し、県民にしっかりと説明すべきである。

キラメッセの高い実績とは？

根拠のひとつにキラメッセ

稼働率(74%)が高いというその利用状況は、年間150件のイベント開催(平成20年度)。

沼津市の利用が一番高く年間1/4(その半分は乳幼児予防接種)、2番目は骨董・質流れ・雑貨等の物品販売が1/5、3番目は就職・進学説明会、4番目は車展示販売(おもに中古車販売)、後は住宅展、家電展示即売などに利用。

果たして、この利用実態が「これまでの高い実績」として評価できるものかと言えらるのだろうか。

#### 財源的な内訳

総事業費168億円そのうち沼津市負担分50億円

展示場 36億円

駐車場(500台収容) 10億円

その他 4億円

国庫補助金 14億円

市債(借金) 27億円

一般財源 9億円

利息は20年の元利償還(2.5%)で8.2億円

市債総額 35億円にも膨らむ。

ランニングコストは年間1.2億円。キラメッセの21年度末時点の償還残金(借金残高)は2.5億円。

#### 問題提起

一、キラメッセの借金返済(平成26年まで)が終わっていないのに、なぜ新たに建て替えをしなくてはならないのか。低迷している経済状況の中で、23年度から補助金は一括交付金になるといわれ、補助金を当てにする事業は新政権のもと先行きが全く見えないのに、キラメッセを解体してまでも新展示場を作らなければならぬ理由とは？

#### 【答弁要旨】

キラメッセは広域的に利用され、中心市街地の高次都市機能に役割を果たしている。その高い実績があることから、県が会議場を建てるのに合わせてその一体的な利用を図る。

二、基本協定が締結されていない状況は何が原因か。本来なら3月に基本協定締結が、8カ月たってもされていない。事業計画が遅れているがその原因と見通しは？

#### 【答弁要旨】

県知事が県産木材の活用と

## 沼津市政に対する思い

丹澤 由貴子

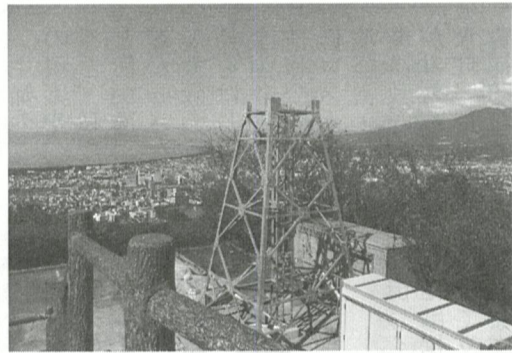
主婦のごく普通の目線で、沼津市の現実や、将来の方向性を考えてみると、私たち市民の考えている方向と何か違って、割り切れないもどかしさを感じています。大阪の橋下知事、名古屋の河村市長をはじめ全国各地で情報公開・低コスト自治経営・企業誘致などで明快な街づくりの動きがみられます。近隣では裾野市、清水町、長泉町では子育て支援、医療費補助などでは先進的な施策で沼津市を上回っています。また三島市では議員たちが一緒に各地域に

ははじめ行政の発言・行動に関心を持つことが大事です。そして、子どもたちに幸せな未来を残せる素晴らしい街づくりを女性の視点で活動して下さることを願っています。



いうことで、設計の見直しをしているところで、24年度の施設の供用開始を目指し努力している。まとめ 「50億円という巨大な箱モノ事業を市民が本望に望み、必要としているのか、なぜ今の事業を進めなければならぬのか、立ち止まって考える時ではないのか。計画時と今とは経済状況が大変厳しくなっている。私たち市民はイラdeの経験を身をもって学習したはずである。その轍を一度市民の視点に立った議論が必要ではないか」と市長に問う。残念ながら市長の答弁はなかった。しかし、最後は市長の判断である。

香貫山電波塔



香貫山ゴミ掃除作戦 第6弾



平成20年12月23日今年最後のゴミ拾いを行う。毎月1回だけの活動だが、継続することの難しさは感じるものの、きれいになった時の嬉しさも確かにあるなあと思ひ始めています。影奉仕の仲間も加わり今回は12人で顔ぶれも毎回違う。

いつもまずとりかかるのは、トイレ横の崖下のごみ。常習的に生活ごみが投げ捨てられている場所で、崖下なのでいつも苦勞をする。今回は既に森林組合の方が来て掃除をしてくれたということで助かりました。それで公園周りの草取りや側溝にたまった土や草を取り除き瞬間にすっきりする。

年末最後のゴミ拾いなので、作業が終わった後に手作りのお汁粉を食べる。(こんなおまけがあると嬉しいねえ)

次回の作戦は1月24日(日)9時半 香陵台茶店前集合 雨天中止 持ち物 軍手orゴム手袋・草取り用具など (ごみ袋はこちらで用意)

デジタル防災無線設備整備事業21年度分の中継局設備工事が9月から始まった。香貫山頂上の展望台駐車場に14.5mの鉄塔を建てていたが、完成直前に展望を損なうという市民の苦情で工事が中断し見直しをすることになった。12月10日に防災地震課(緑地公園課、農林農地課等)の現地説明会があり、地元自治会役員と山の仲間が集まった。今までの経過と今後の対応について話し合った。代替案として展望台が30年経

地域主体の健康づくりを推進

過し老朽化してきているので、新たに自然と調和し、鉄塔と一体となった形で建設したいという。本来なら計画時に香貫山の景観や自然保護、将来的に香貫山をどうしていくのかも含め広域的に検討すべきだったと思うが...

「地域元氣アップ事業」にいくつか参加させてもらい気付いたことがある。市民の健康づくりと地域のネットワークづくりの観点から非常に大きな成果が上がっていた。地域住民の交流や高齢者や一人暮らしの引きこもり予防などの効果、そして何よりも楽しく、笑いのある時間を皆で共有していることであった。この事業が担当課を超えて連携していくことで、さらなる飛躍をすることが可能であり、「健康都市の沼津」とい



「香貫山ビアマウント」開催

11月7日(土)16:00~香貫山にて 香貫山の頂上で“サンセット&夜景&大道芸”を見ながら食事を楽しむイベントを企画した。世界に輸出している地元産ビールと地元の食材を使った欧風料理のオーナーの方々に協賛していただく。今回はトライアルイベントとして、今後は香貫山をどう次世代につなげていくのか、そんな気付きのきっかけになればと思っている。私たち子どもの頃から香貫山と富士山はいつでも見ることができ当たり前の風景であるが、最近すこし様子が違ってきている。皆が無関心でいると大事な自然を守りきれなくなっている。自然の恵みは、そのままでは維持できなくなっているという危機感もあって、仲間たちと急遽企画をし、多くの方に楽しんでいただけたことができた。



山下ふみこと語ろう!

今回はアフリカ南部の国「ザンビア」に海外青年協力隊(JICA)の体育指導員として2年間活動してきた小野未沙樹さんがゲストです。1月9日に帰国したばかりの彼女の体験を語っていただきます。お楽しみに!

「アフリカ南部・ザンビア報告、そして明日へ」

小野未沙樹 (1984年生まれ沼津市大岡)

市政報告「地方の試練はこれからが本番」

山下ふみこ 沼津市議会議員

日時 2010年1月31日(日) 時間 13:30~15:30 場所 「沼津市民文化センター」(御幸町) 2階大会議室

どなたでもご参加いただけます。お子様連れ歓迎します。

連絡先

ふみことステキな仲間たち tel 055-962-2509 メール: mail@yamashita.fm



応援活動!

山下ふみこ応援隊では山下ふみこの活動を支援して下さる応援隊を随時募集しています。

- ①ポスティング隊 この新聞をお住まいの地域に配布して下さる活動です。
②活動準備隊 イベントなどの準備していただく活動です。
③応援隊 何かできる方、応援している方ぜひご登録を!

tel 055-962-2509 mail@yamashita.fm